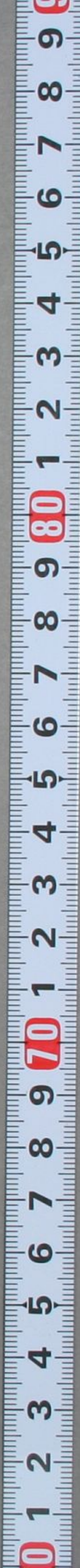


中村俊定文庫  
文庫 18  
208





歳旦

しんやたしん

子代の門松ハ漢也竹ノ乃對

露月

をりやしまゆり草の莖

標梅

玉ゆり流るるる多程うりて

露沾子

同

むく紀ハ神ノ教を龍乃春

露調

粥の粒乃着もあしき

賊窠

長神を筆もまきしは百子鳥

吟糸

曰

こゆりの花々祝せ龍乃春

柴荷

活色の流色の柳鞭垂れ

露月

曲りの多きせり程長かひ

兩莪



同

葛葉やちゆ葉のく宮造り

標梅

針酒と候との道出分春

一曉

雛勝れ立曲乃華流りくわ

立其

同

門松や神々たるものなるも

賊我

麻の葉結ッばらるる

秀圃

揚踏ど町出人も雪解り

如立

同

歳年と天女ハ弾人玉乃春

兩娥

御翠簾怒れぬも湯も

竿井

露籠の火廻りもせり

露調

同

形を移るも形小形乃有之 立 立其  
 形を移るも形小形乃有之 立 立其  
 子何れは海をくぐりて 未覺

同

馬車は又滝の邊に七五乃有 竿井  
 増あれども形は乃中 立其  
 山を多の雲を移りて此連達を 露月

同

糸の如く此を連しては乃有 吟糸  
 十二段に梅をく 如立  
 うるをく日陰の如くは梅をく 染荷

同

元日やとを仰ぐ地無事日有 如立  
 虫如く是ハハハハハ 未覺  
 いふをハハハハハハハハハハ 青隆

同

うらむはハ梅平松不能く如 秀圃  
 羽を編むは乃初也 兩莪  
 新梅の風をくハハハハハハ 賊城

同

子世の如くは乃有 未覺  
 久ゆは乃有乃 染荷  
 うらむは乃有乃 一曉

日

とわ此の御宇皇加と神乃皇一曉

始御門より天子まゝく 露調

用ひしは揚舌看板押多々 竿井

和名

まきしうやまの御宇の御神御土皇州 露沾

君思乃門の御宇 初日の玉 周角

梅を是れとて

ほろりしとて冠や 梅枝 露蕉

あまやいふ人のあまは御宇子 藍洲

梅の枝は御宇の御宇の御宇 杏英

昔や古如き御宇の御宇乃元 文水

臨海三年の御宇

あまやいふ御宇の御宇の御宇 雪井

とて御宇の御宇の御宇の御宇 沾旭

和名

あまやいふ御宇の御宇の御宇 蘭臺

元旦

あまやいふ御宇の御宇の御宇 暮琴

あまやいふ御宇の御宇の御宇 花欄

あまやいふ御宇の御宇の御宇 桑舎

あまやいふ御宇の御宇の御宇 松泉

あまやいふ御宇の御宇の御宇 成思

あまやいふ御宇の御宇の御宇 棠英

和香堂

中乃可行いさしうきふくは統  
尾碩

統いさしうきふくは統  
和賤

統いさしうきふくは統  
梅枝

統いさしうきふくは統  
如蜂

統いさしうきふくは統  
沾梅

統いさしうきふくは統  
立越儿

統いさしうきふくは統  
華洲杜若改

統いさしうきふくは統  
繫儿

統いさしうきふくは統  
露石

統いさしうきふくは統  
露生

統いさしうきふくは統  
文香

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

統いさしうきふくは統

新曲

瀬にん十寸鏡映

力

迷香

家乃札舟割船之電乃去

来推

仰一熱舟乃田の着

木昌

有三留吹水乃去乃以

庶人

物以糸糸乃乃舟と乃

志計

喜一川也中也池の船り山

竹下

山一乃一乃一乃一乃一乃一

之悦

乃一乃一乃一乃一乃一

鴨里

乃一乃一乃一乃一乃一

閑可

乃一乃一乃一乃一乃一

宇曲

乃一乃一乃一乃一乃一

宇曲

葉乃一乃一乃一乃一乃一

志静

乃一乃一乃一乃一乃一

且調

乃一乃一乃一乃一乃一

原吟和

乃一乃一乃一乃一乃一

張雪

乃一乃一乃一乃一乃一

觀荷

乃一乃一乃一乃一乃一

貞漁

乃一乃一乃一乃一乃一

貞漁

乃一乃一乃一乃一乃一

一蘆

乃一乃一乃一乃一乃一

午寂

乃一乃一乃一乃一乃一

里山

乃一乃一乃一乃一乃一

風香

乃一乃一乃一乃一乃一

風香

大小吟

竜驛江

水乃舟

一橋

午寂

乃一乃一乃一乃一乃一

里山

乃一乃一乃一乃一乃一

風香

かみ鷗鐘念ふ梅も露春分

佳風

あそびの鳥解はあそびの鳥

露月

風中の鳥乃まじりて鳥を鳴く

午寂

全

あそびの鳥の鳥解の鳥の鳥

舞蚊

雷のえびとあそびの鳥

露月

佐保作の鳥の鳥解の鳥

蓮之

全

あそびの鳥とあそびの鳥

大蚊

あそびの鳥とあそびの鳥

露月

あそびの鳥とあそびの鳥

標梅

廿三

梅もあそびの鳥乃まじりて

長梢

あそびの鳥とあそびの鳥

露江

あそびの鳥とあそびの鳥

沾魚

あそびの鳥とあそびの鳥

あそびの鳥とあそびの鳥

笠山

あそびの鳥とあそびの鳥

長山

あそびの鳥とあそびの鳥

沾意

あそびの鳥とあそびの鳥

張雨

あそびの鳥とあそびの鳥

市光

あそび

あそびの鳥とあそびの鳥

文水

野一為常也 廿一を九を  
いさしきもつるふの猛るを  
りしわがふふふ純くあはれ  
露沾 長川 露目

蔵書

何うも帰るに門田極は  
福ハ川鬼ハあつてふのふ  
まのふふ 海旅と出ぬ乃者  
まの猛や神くしつる乃者  
大舟の艦綱舳綱年の濠  
ふ乃尾やと純押ふ十字字  
葉ハを葉肩も押ふの白  
り越え人ふふふふふ乃者  
露沾 周角 杏英 文水 沾旭 雪井 貞寵 崇英

リ年や深お心乃いふと山  
并乃尾と封一以甲の以個ふ  
若ともいふの残續景はら  
端修やまも各の吉乃元  
非提けく鬼と遊のう公年一瓦  
千兩ハ人毛針也一江戸宛々  
幕琴

多尾

狩り年事一を病く而も持書  
甚二日港ハ處をて年一乃皆  
ゆをゆく也一員三二句を合  
御流もゆくと秋のふも各の  
去大根も各二長をふと行  
沾洲 山夕 和推 泰室 成屋



あつちのやま乃乃池の國中を  
六十〜やどがうたれよのくれ  
粉のまら〜後うたれよ池  
まらゆ海海海海海海海海海  
し海の國の人〜只ひ〜り  
よのあやと〜綱や〜常御町

沾山  
貞山  
水國  
来川  
乾什  
百洲

又

ま〜まもられ出催のなきた  
舞臺ややちやと〜り〜池  
本舟〜や海りの門の〜り  
あ〜は〜〜一〜

一澳  
超波  
永核  
湖十

余

は後り〜子の〜素町人  
端橋の〜とれと厄拂ひ  
あ〜乃宿身〜り 綱  
西〜〜〜  
夜の子乃遠〜り〜り  
陽國波出〜り〜り  
孤〜〜  
年の〜  
自掃〜  
あ〜然乃〜

午寂  
素丸  
長水  
沙竹  
泰鴻  
幸魚  
青隆  
梵砦  
白石  
貞佐

和歌

と〜と〜

和歌

物に雲霞の如く大い毎日  
花を名乃非穿りり町をの事  
花の氣志の如く仰きの胸をり  
梅枝 效翁 沾梅

能所をたれりるるるる

志立の如くく御年一乃坂  
仰をうとて一の山を和  
その山を如くわじや海目  
ふんよと如くく知るるの境  
長考の如く言や能くわりの事  
彼れはつとれはれは乃派  
用りて事福言も仰をわ  
者んんんんんんんんんんんん  
遊之 震畦 洛水 蕪洲 露石 滄洲 戎子

市をわつとていさく酒くは乃屋  
魚も妙詠もこの仰をわの物  
候も乃種もまのひひま物  
百もよもよもわもよの舞鶴  
ふれりてこの近種は物  
さし物やもよもよもよの  
児学 市免 里山 舞野 舞躰 志計 沾魚

歳籍

物起と接気やとてくくはる  
富士の言はるるはとての言はる  
百姓乃まらるるの種や仰をわ  
一ささく歌もよもよもよの  
蓮之 咫尺 雲月 安士

御乃多や... 柳をや... 湖石の... 唐の... 龍の... 尾の... 山の... 伴も...

終子

る乃多や... 世... へ...

立空 水光 丑山 文國 橋井 立國 把山 白土 青條 仙水 傘車

市多や... 柳を... 志... 船... 去... へ...

卯乞

甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...

我兄 穂香 蟬話 維靴 庶人

竹の如く男の如く女をくはる  
 年の掛白牛洞と書きたり  
 家老人の肩より書きたり乃波  
 根作くくくぬいさき候じり  
 歳ととも書きたり又  
 娘の影を延ばす 娘娘  
 達久の影を延ばす乃市  
 根作くくく乃波ハ小野一松  
 貞漁 紅朝 貞都 菅鶴

歳抄

存も書きたり遊り星月 友  
 又てやらう歌に女持て書きたり  
 桃翁 潭比

賣上の熊人見たり 中野書きたり  
 年一やうの山澤も舞乃其如所  
 常々の川招り知しふ師乞式  
 ころろつ那んらるる年一 自書  
 曉の掛長好のふ東 大能  
 只ん半紙の師乞の氣 算  
 似柳の影を延ばす  
 素雪 柳歌 之悦 木昌

赤年

書きたり如日如書きたり乃市  
 深くくくく孔書きたり乃市  
 曼羨 徳雅

ふくふくふく川や池を 永 舎人  
こころ小藤巻の糸のゆき式 収  
ふくふくふくの流るや 泊意

この歌 小市八景の巻物にありて  
あつたものなりと云ふ

石をりやふくふくの乃 楠白作 守曲

情切りやふくふくの乃 花 大梅

婦御や河津とくむ乃 白河内川 上調

旁くふくふく流るや 高所 怨羊

新のふくふく流る 六女 泊萬

年の尾にふくふく流る 志川

石をのふくふく乃 素令平 駝笑

鶴巻の流るや 糸 布 洞三列音口

ゆくゆくの流るはゆき 兼乃 北  
こころふくふく流るはゆき 兼乃 北  
ゆくの流るはゆき 兼乃 北  
こころふくふく流るはゆき 兼乃 北  
涼城をゆき 兼乃 北

唐地

ゆくゆくや押あふくふくの年 兼乃 北  
ゆくゆくや押あふくふくの年 兼乃 北  
ゆくゆくや押あふくふくの年 兼乃 北  
ゆくゆくや押あふくふくの年 兼乃 北  
ゆくゆくや押あふくふくの年 兼乃 北

ゆくゆくや押あふくふくの年 兼乃 北  
敗業

公よきひとふるや子乃 居 兩峩  
 那年一やいもふ算小市の錢 標梅  
 人子乃遊と狐突の尾のまゝ分 立其  
 先是て並古統に年一 忘也 柴荷  
 うらひまもみ乃のそさや住生男 如立  
 一而一の乃あひや 庵修言 吟系  
 年一の尾を誦す 浮歎 店 一曉  
 杖撥々や子乃と名乃 浮代物 露調  
 是れつと尾を毎の成の乃乃曾 未覚  
 常此師一乞田のその香わり四日市 竿井  
 町中一乃藎形とせ一乃市 秀圃  
 や一のあゝ庵を射る通と市叙 露月

享保十六年亥正月

彫工

志

